

## 第2回 江の川河川整備懇談会（広島管内） （議事要旨）

開催日時：平成23年5月23日（月）

現地視察：10:30～15:30

懇談会：15:30～16:30

懇談会場所：三次市福祉保健センター 4階 ふれあいホール

出席委員： 岩本 浩史（島根県立大学総合政策学部准教授）  
裏戸 勉（松江工業高等専門学校名誉教授）  
河原 能久（広島大学大学院工学研究院教授）  
関 太郎（広島大学名誉教授）  
中林 光生（広島女学院大学名誉教授）  
中村 幹雄（元島根県内水面水産試験場長）  
林 秀司（島根県立大学総合政策学部教授）  
藤原 眞砂（島根県立大学総合政策学部教授）  
村上 恭祥（元広島県水産試験場長）  
山崎 禅雄（日笠寺住職（元桜江町教育委員長））

10名出席

### 【議事について】

- 現地視察結果及び住民意見・アンケート集計結果について
- ・事務局より住民意見・アンケート集計結果について説明

### 【委員】

- ・現地をみると、水裏部より水衝部が優先的に整備されているように感じた。
- ・どこの堤防も定規断面というわけではなく、水のあたり方を考慮した上で、自然をあまり痛めないような工法で整備するのが良いと思う。
- ・今後の整備にあたっては、予算の制約がある中でどうやって治水安全度を上げるか、ソフト対策も含め考えて欲しい。

### 【委員】

- ・堤防に多くの土が使われているが、山を削ってつくった堤防なのか？川を掘った土を使って、足りない分のみ山を削るのが良いと思う。

### 【事務局】

- ・今までの堤防材料は、川の河床材料を流用したり、他の公共事業である、道路事業などで切り土したものを持ってきたりというものが多と思う。

### 【委員】

- ・河原の樹林化を何とかしようというのはわかるが、それとレキ河原再生との関係がわかりにくかった。

### 【事務局】

- ・私たちが子どもの頃は、結構レキ河原があったと思うが、現在は、草とか樹木が繁茂している状況が結構みられる。樹林化すると、川と地域を遮断するようなところや、洪水の時に流水阻害になるようなところがあり、環境面・治水面を総合的に考え、環境整備事業としてレキ河原再生を実施した。

### 【委員】

- ・植生の繁茂が、今の洪水の疎通能力を低下させているという話をご理解いただきたいと思う。

- ・レキ河原再生事業が、規模が余りにも小さ過ぎて、今後の植生管理にどのように結びつくのかが見えないと感じた。

**【事務局】**

- ・レキ河原再生は、環境整備事業の中で区間を限定し行っており、今後はその知見を踏まえ、維持管理の中で他地域にも広げていきたいと思っている。

**【委員】**

- ・レキ河原の再生は、規模が小さく、すぐに草が生えてしまうので、それをどうされるのか？
- ・水辺の楽校の歩道は、人もあまり歩いていないようだし、植生にも良いところがないので、今後はよく考えて欲しい。

**【委員】**

- ・下流部では大きな洪水がくると、きれいに草が流されるが、上流部ではダムの水の流し方によって、再生したレキ河原がもとの状態に戻ってしまうのだと思う。
- ・三次より上流部は、定期的に河川敷の草や土砂を排除するなど、人工的に河川管理をする必要があると思う。

**【委員】**

- ・江の川取水堰から下流の粗粒化がものすごく進み、中小レキがほとんどないのに対して、上流は樹林化が進んでいる状況にあるので、それぞれの場所にあった対策が必要だと思う。

**【委員】**

- ・アンケートの「普段どのように川と関わっていますか。」については、東北の地震前後で水に対する住民の認識が変わったのではないかと思う。地震前後の観点で分析してみてもどうか。また、住んでいる場所についても、上・中・下流で川との関わりについてどういうふうに認識が違うか、はっきりわかるような答えの差があった場合、政策的に意味のある情報だと思う。
- ・昭和47年洪水は、何年に1度の確率か？また、江の川の整備にあたっては、「何年に1度の洪水」というのがあるのか？

**【事務局】**

- ・ほとんどが、東北の震災前に届いていると思うので、震災前後での分析はちょっと難しいが、地域別の整理は、ある程度できると思う。
- ・昭和47年災害はおおむね40年に1回の確率である。整備計画も昭和47年の洪水を意識しながら検討を進めていきたい。

**【委員】**

- ・身近な治水の問題ということに関して、住民が震災で改めて怖さを感じたと思う。治水整備をしっかりやっているというアピールを、委員会を含めて何か出せば住民の皆さんは、安心されるんじゃないかと思う。

**【委員】**

- ・川岸の竹林が大きい出水があった場合に倒れているが、河原を守るために必要なのか、それとも流れを阻害する要因なのか教えて欲しい。
- ・これから事業が行われるところは優先度が相対的に低いところになるので、費用対効果についても広い視点で検討して欲しい。

**【事務局】**

- ・島根県側の竹林は昔の弘法大師の時代から水害防備林ということで位置づけられたような竹林があるが、上流の竹林において流水阻害の大きなところは、伐木する方向で検討していきたい。

**【委員】**

- ・江の川上流においては、樹木の管理計画みたいなものが重要な位置を占めるのではないかと感じた。
- ・治水整備の必要箇所は、優先順位、上下流の整備方法、経済性、どのレベルで守るか等について、具体的に考えていく必要がある。
- ・ダムで流量をコントロールした結果として、レキの径の管理、河床材料の管理等の課題が反面としてでてきているので、これらを詰めることになると思う。

**【委員】**

- ・水辺の国勢調査（魚類）や水質のデータ、河川の漁獲量の経年変化をまとめると、河川環境の変化を推察でき、整備計画に活かせるのではないか。

**【委員】**

- ・太田川で魚の調査をしている人が予想外に鳥類、魚類の種類が多いということを知っていた。樹木の種類が多くあり、本来の植生であるような草地があることが、他の生き物をたくさんはぐくんで、川の中の生物まで豊かにしているという可能性があると思うので考慮して欲しい。

**【委員】**

- ・水辺の国勢調査は、ダム湖と河川で連携が図れていない。ダム湖と河川とを総合的に考える必要がある。

以上